



～地域の輝き～

イシマササユリを守る (伊島)

「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」古くからその美しさと芳香を称えられてきたササユリ。その清楚で美しい姿は、見る人の心を洗い流してくれる。島の厳しい環境に耐え、独自の進化を遂げた島の固有種イシマササユリ。島の宝として守る人々の笑顔とともに、今年も大輪の花を咲かせた。

紀伊水道に浮かぶ阿南市の離島・伊島。初夏に可憐な花を咲かせるイシマササユリの群生地として知られ、主に、カベヘラや笹谷と呼ばれる生育地や観音、弁天へ通じる道沿いで多く見ることが出来ます。

港から集落を通り抜け、山道を進むこと約30分、観音へ通じる道沿いに、ひっそりと咲く一輪のササユリを見つけました。地元の方も心待ちにしていた瞬間です。



新野高校生とハイオ球根を移植する小学生



島の東部笹谷から望む景色



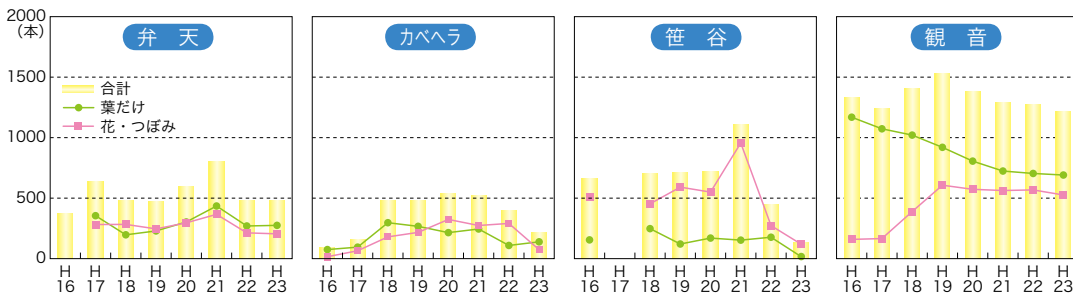
開花したササユリと一緒に記念撮影



カベヘラで生育調査をする老人会



伊島中学校と小学校・老人会・婦人会によるイシマササユリ生育調査 (任意調査H16～)



かつて、島の一面が染まるほど群生していたと伝えられているササユリ。今では、生活燃料の転換の影でその数を減らしました。

「ササユリは島の宝。一輪でも多くの花を咲かせたい」シンボルフラワーの再生を願い、伊島中学校では60年もの間、保護活動が行われてきました。

私たちが今、イシマササユリと出会える場所、それは、自然の育みと島の優しさが用意してくれた特別席なのかもしれません。